

## 第4回 FIA 技術講習会を受講して (III)

(株) 環境公害センター  
山口 雄司

「フローインジェクション分析技術講習会」を受講する前までの FIA に関する私の知識は、昨年まで大学生でそのときの研究室で先輩方が使用していたのを見たり、少し話を聞いたりする程度のものでしかありませんでした。そのため、受講する前は実習よりも講義のほうに関心がありました。

午前の講義は、「FIA の基礎」、「FIA の実際」、「FIA の公定法化」のテーマに分けられていました。「FIA の基礎」では FIA を利用することによる特長が分かり、「FIA の実際」では FIA と公定法との間には良好な相関関係があることが分かり、「FIA の公定法化」では現在の法律における FIA の位置が分かりました。その中でも私が一番興味を引いたテーマは、「FIA の実際」です。FIA がどのような場面で使用されているのか知りたかったからです。

実際に私自身が分析を行っているのではないのですが、硝酸イオンの測定のために Cd-Cu カラムを用いる方法はカドミウム廃液が多量に出

ると聞きました。しかし、FIA を使用することで、多くの検体をこなしてもわずかな廃液しか出ないと聞き、環境測定をしているのに多量の廃液を出してはいけなことから FIA に切り替えるべきだと思いました。ところが、FIA の日本における現状が、ISO などに比べ遅れており FIA がまだ公定法化されていないため、実社会へ広く普及することは難しいと感じました。

午後の実習では、リアクションコイル・サンプルループ・セルの影響を見ました。その測定結果について講師の先生にとっても分かりやすい説明をしていただき、今後活かすことができればと思いました。

今まで、様々な講習に参加してきましたが、講義だけというものばかりでした。今回参加してみて、この FIA 技術講習会のような講義・実習の両方学べる場が増えればと思いました。FIA 法のいち早い公定法化を願っております。どうもありがとうございました。

